

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい社会 歴史</h1>	2 東書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開き 1 単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、確認で構成されている。効果的に学習内容の定着を図るため、学習した内容を振り返る 2 段階の「チェック&トライ」が設けられている。 ○情報を集めたり読み取ったりまとめたりする基礎的な技能を身に付ける「スキル・アップ」が 20 箇所にわたり設けられている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○時代のまとめで「くらげチャート」「Xチャート」「ピラミッドストラクチャ」「ウェビング」などの思考ツールを活用した学習内容の「まとめの活動」が設けてある。 ○歴史的な見方・考え方を働かせ、学びが深められるよう「見方・考え方コーナー」が適宜設けられている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○主体的に社会の形成に参画する資質や能力を養えるよう「地域の歴史を調べよう」では、時代や地域が異なる 6 事例が示してある。 ○1 単位時間の学習で追及する学習課題を示し、主体的に学習ができる工夫がある。 ○生徒キャラクターの会話で、生徒が探求課題を主体的に解決するヒントが示されている。また、思考を整理するためのさまざまな思考ツールが提示されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○単元全体を貫く「探求課題」を立てる「導入の活動」から始まり、1 時間ごとに学習課題を解決しながら進める「問いの追求」へと移り、「探求課題」を解決する「まとめの活動」の形で問いを軸にして単元を構造化し、課題解決的な学習に取り組みやすくなっている。 ○「みんなでチャレンジ」では、対話的な学習の場面が設けられ、持続可能な社会の実現に向けて構想し、積極的に社会参画したり、他者と共同したりしながら、より良い社会を築こうとする意識や態度を養えるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部や側面に学習の動機づけや探究の中心となる、導入資料・中心資料が写真などで大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典・所蔵のほか、資料の大きさが記されているものがある。 ○D マークや二次元コードを付し、インターネットを使った学習ができるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。 ○ページごとに年表でどの時代を学習しているかを色で表し、資料掲載部分にも色付けすることで本文との区分けを明確にしている。 ○文字は UD で、用語解説のページや参照ページが示され、資料には、見開きごとのまとまりで通し番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○単元を貫く「探求課題」を立てる導入から、探求課題を解決するまとめの活動の形で単元を構造化し、課題解決的な学習の構成である。 ○歴史的見方・考え方を働かせて学びを深めたり、さまざまな思考ツールを活用したまとめができるよう工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学社会 歴史 未来をひらく</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間とし、1単位時間の最後に学習したことを整理してまとめる「確認」のコーナーが設けられている。 ○適宜設けられている「歴史の技」のコーナーでは、個人やグループでの活動を通じて、歴史の学習で身につけたい資料活用の方法や手順などの技能が養えるよう配慮されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「確認」を受けて学習したことを表現する「表現」のコーナーが設けられ、学習事項の定着と事象の理由を説明したりできるよう配慮されている。 ○「読み解こう」や「Q」のコーナーが設けられ、地図・グラフ・絵・図解などの資料を読み取って考察する学習内容が重視されている。 ○「歴史の窓」が設けられ、多面的・多角的に考察・理解できるよう配慮されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入の「学習を始めよう」では、資料が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読みながら、章の学習が見通しをもって進められるように工夫されている。 ○各章に「歴史を探ろう」と「身近な地域の歴史を調べよう」の2種類の特設ページが設けられている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の初めに位置付けた「学習課題」を受けて、資料の読み解きのために適宜設けられている「読み解こう」などのコーナーや、1時間の学習の最後に位置付く「確認」「表現」のコーナーの「問い」に取り組むことで、生徒が自ら学び、自ら考える学習が展開できるように配慮されている。 ○巻末「歴史を振り返って、未来を構想しよう」が位置付けられ、今日的な課題とその解決について自分たちには何ができるかを考察・構想し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習のきっかけや追究の中心となる、導入資料・中心資料が写真などで大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に吹き出しをつけ、疑問点や解説が掲載されている。 ○教科書とウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つ様々な情報を得ることができる「まなびリンク」が設けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインフォントによる黒文字を基本とし、判読しやすいよう配慮されている。 ○「時代スケール」として項目ごとに学習する時代の範囲を色で表し、小学校で学習した人物・国宝や重要文化財、世界遺産をマークで区別している。 ○社会科学学習に不可欠な写真・イラスト・地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され、出典と併せて視覚的に捉えやすく配置されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○人権や平和、環境、災害・防災等、現代社会に見られるさまざまな課題を、歴史の流れを踏まえて考察したり、地域社会と関わりながら学習できるよう工夫されている。また、資料を活用しながら多面的・多角的に考察し、表現することができるよう工夫されている。 	

<p>書名 項目</p>	<p>社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き</p>	<p>46 帝 国</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開き1単位時間とし、導入資料、「学習課題」、本文、「確認しよう」「説明しよう」で構成され、時代の特色をとらえる学習に配慮している。 ○「技能をみがく」によって歴史的な見方・考え方を働かせる上で必要な技能を体系的に身に付けられるよう配慮されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○開きのまとめの「章の学習を振り返ろう」では、「章の問い」を振り返り、自分の言葉でまとめ、表現するようになっている。 ○時代冒頭の「タイムトラベル」で、絵から疑問やイメージを持たせる工夫がある。 ○「歴史を探ろう」では、当時の社会を地域の視点から見ることで、日本の歴史を多面的にとらえる配慮がされている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「タイムトラベル」では、単元のはじめで時代の特色を見通し、本文と関連付けたり、眺め直したりすることで、時代の振り返りができるように工夫されている。 ○図とイラストによるイラスト世界地図では、日本の歴史を世界の動きのなかに位置付けて見ることができるよう配慮されている。 ○学習内容を広げたり深めたりする、特集「歴史を探ろう」では、生徒の興味・関心に応じて、学習が進められるようになっている。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○章のはじめに「章の問い」を設け、単元を貫く問いを明示することで見通しをもち、単元のまとまりで課題解決的な学習ができるよう配慮されている。また、章のなかの各節のはじめには「節の問い」を設けてあり、節ごとの到達目標を明示している。節のなかの各見開きにも、節の問いに対応した学習課題が設定されている。 ○「章の学習を振り返ろう」では、見開きから節、節から章へと段階的に振り返りを行い、学習を積み重ねて課題追究ができるように構成されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○見開きの上部に学習の中心となる資料と地理的な知識を深めるための地図が大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。 ○時代冒頭の「タイムトラベル」で場面を焦点化することで、時代の特色をつかむことができるよう配慮されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○見開きの右端に「年表インデックス」が掲載され、巻頭の日本の歴史年表・巻末の世界史年表と照らし合わせて確認するように工夫されている。 ○各項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と学習内容を確認・説明するための課題が2つ示されている。 ○本文に赤色の参照記号がついており、関連する場面を「タイムトラベル」で確認できるようになっている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○伝統文化への関心を高める資料や文化が生まれた社会的背景がわかる説明、琉球やアイヌの人々の記述、地域の視点から見ることなど、さまざまな立場や選択を踏まえて考察する活動が設けられ、多面的・多角的に歴史をとらえられるように配慮されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学歴史 日本と世界</h1>	8 1 山 川
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開き 1 単位時間とし、導入の発問、ステップアップによる振り返り、という流れで統一され、知識・技能を身につける構造となっている。 ○「歴史との対話」では、歴史を学ぶための基礎知識と、歴史の調べ方を示し、歴史学習に必要な技術が習得できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元の導入の発問、ステップアップの課題、図版に付した発問など、各所に設けた発問を自ら考え、判断する力を身につける工夫がみられる。 ○「歴史を考えよう」「地域からのアプローチ」では、課題や発問を付し、グループ活動をとおして意見を交換する場面を設定している。 ○章末「まとめ」では、時代全体を俯瞰して考えるための問いかけがあり、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○図版を大きく、見やすくし、発問によって、どこに注目すべきかの示唆を与え、歴史への興味関心を呼ぶ工夫がされている。 ○「身近な地域を調べよう」は、実際の中学生を想定し、調査の順序、注意事項を示し、生徒が主体的に取り組むことを促す工夫がされている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○「身近な地域を調べよう」では、実際の中学生を想定し、調査の順序や注意事項を示して、生徒が主体的に課題を追究することができるように工夫されている。 ○「歴史を考えよう」や「地域からのアプローチ」では、史料の細部をクローズアップしたり発掘調査の結果を踏まえたりすることで、さまざまな角度から課題を追究できるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習の中心となる資料と地理的な知識を深めるための地図が大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。 ○二次元コードを付し、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見るなど、課題を追究した学習ができるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記され、見開きに見通しをもつための学習課題と課題追究のための「ステップアップ」の発問が示されている。 ○地図、グラフなどの資料は、カラーUDを配慮して作成してある。また、色彩のみでなく、線種・記号などで差をつける工夫がされている。 ○文字は、UDフォントで、本文、図版、キャプションなどの漢字にはフリガナを付してある。固有名詞・歴史用語にはすべてフリガナを付してある。 </p>	
総 括	<p> ○時代全体を俯瞰して考えるための問いかけやさまざまな資料をもとに、課題を話し合い考察したり、地域の歴史をさまざまな角度から考えたりすることで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫がある。また、高校につながる教科書としての構成・叙述の流れや資料等が工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1>中学社会 歴史的分野</h1>	1 1 6 日 文
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間とし、「導入資料」、「学習課題」、「本文・図版」、「確認」で構成され、授業や生徒の思考の流れに沿った構成になっている。 ○「スキルUP」では、歴史学習を進めるにあたって必要な技能を解説している。社会的事象等について調べ、まとめる技能が身に付けられるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史的な見方・考え方を働かせる問いを「深めようコーナー」として設け、習得した知識を定着させ活用させる場面を設定している。 ○各時代のまとめでは、習得した知識を関連させて、時代の特色をとらえるための「アクティビティ」を設定している。 ○章末「とらえよう！○○の特色」では、習得した知識を関連させ、時代の特色を考え説明したり、話し合いや意見交換したりする学習活動が設けられている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代的な諸課題の歴史的背景や解決に取り組んだ先人の姿を詳しく解説している「『歴史との対話』を未来に活かす」を設定している。テーマ別さくいとそれを活用して取り組む課題例が提示されており、生徒が自ら選んだ課題学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ○地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や文化財・先人を紹介するコーナーや特設ページが設けられている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史の学習のサイト「『歴史との対話』を未来に活かす」では、課題の解決に向けて歴史をふまえて未来を考える学習活動が設けられている。 ○「『歴史との対話』を未来に活かす」や「先人に学ぶ」では、現代の課題の背景や人権、環境、平和、防災、減災への先人たちの取り組みを学び、解決の手立てについて生徒が歴史を踏まえて考えることができるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習の中心となる資料と地理的な知識を深めるための地図が大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。 ○教科書内容の理解を助ける動画やワークシートなどの教科書QRコンテンツをウェブサイトで公開し、教科書には「デジタルマーク」が表示されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字は、UDフォントで、地図・グラフ等の図版類は、カラーUDに対応した配色となっている。 ○見開きページの右端には、時代・世紀のスケールがそろえてあり、学習している時代や世紀を確認できるよう配慮されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と手がかり、学習内容を理解するための問いが示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間とし、導入資料で関心・意欲を引き出し、見通しのもてる学習課題を立て、本文と資料で課題解決し、生徒の思考の流れに沿った構成である。 ○現代の課題の背景や人権、環境、平和、防災、減災への先人たちの取り組みを学び、解決の手立てについて生徒が歴史を踏まえて考えることができるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>[最新] 新しい日本の歴史</h1>	227 育鵬社
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の冒頭に「鳥の目で見ると」や「歴史モノサシ（年表）」が掲載されていることで歴史の大まかな流れをつかむことができる。 ○学習課題を「つかむ」「調べる」「まとめる」ための資料が構造的に配置されている。 ○各章に「このころ世界は」というページが設けられており、同時代の日本と世界の動きをつかませる工夫がなされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「史料の読み方」「歴史ズームイン」「歴史ビュー」「歴史ワクワク調査隊」といったコラム等により、多角的な考察を行なう工夫がなされている。 ○教科書のページ右下に、1時間（毎時）の学習のまとめとして、説明したり話し合ったりする活動が示されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章、各単元の導入では、問題提起となるような発問が設定されており、興味関心を高めながら学習に取り組める工夫がなされている。 ○毎時の導入資料では、生徒に課題意識を持たせるように登場人物の吹き出しの形式で疑問が投げかけられているという工夫が見られる。 ○「歴史のターニングポイント」は、各章に新設されたもので、生徒が「もしその時、私が当事者だったら」という意識で歴史と向き合わせる場面が設定されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「歴史のターニングポイント」「私の歴史博物館をデザインしてみよう」「各章の学習のまとめ」では、基本的な知識技能を活用した課題設定となっており、構造化された章立てとなっている。 ○「私の歴史博物館をデザインしてみよう」では、博物館の学芸員になったつもりで主体的に時代の特色を捉えさせる工夫がなされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の部分拡大や、実際のサイズが分かる工夫がなされている。 ○資料は本文の記述と関連付けて掲載されており、特に「歴史絵巻」や巻頭の「日本の美の形」は視覚的に興味を持ちやすいものとなっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の初めに「歴史絵巻」が掲載されており、わかりやすいイラストでの表現となっている。 ○難しい用語には補足説明をつける配慮がされている。 ○色覚に留意した色彩やデザインとなっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「鳥の目で見ると」や「歴史モノサシ（年表）」によりで歴史の大まかな流れをつかむことができたり、「虫の目」により各時代の特徴をつかんだりするなどミクロ・マクロの視点が反映された紙面のつくりとなっている。 ○各章の導入資料や吹き出し、さまざまな資料により、多面的・多角的に考察することができる構成である。 	